

定年時代

発行 ©株式会社新聞編集センター 2022
〒103-0024
東京都中央区日本橋小舟町6-3
日本橋山大ビル3階
電話 03-5614-5331
FAX 03-5614-5332
Eメール teinen@teinenjidai.com

広告のお申し込みは下記代理店へ
(株)朝日広告社 03(3547)5600
日本コミュニティワーク(株) 03(3661)2836
(株)創通 03(3986)3291
(株)ユーアンドユー 03(6416)9377
(株)多摩エージェンシー 042(632)5840

Panasonic

補聴器

ご試聴・お貸出

お気軽にご相談ください

ご予約・お問い合わせは

パナソニック補聴器 プラザ東京 直営店

Tel.03-3251-3349

営業時間:10時~17時30分

定休日:日曜・月曜・祝日

千代田区神田駿河台3-2

新御茶ノ水アーバンテリニティビル地下2階

東京メトロ【新御茶ノ水駅】B3a出口直結

補聴器プラザ東京

検索



ASA (朝日新聞販売所) は高齢社会を応援します

朝日新聞サービスアンカー



洋楽の音楽家 邦楽器とともに

作曲家・箏曲家の宮城道雄らが「新日本音楽運動」を起こしたのは約100年前。新しい邦楽を目指して洋楽の技法を大胆に取り入れた。そして今、その動きとは逆に、洋楽の音楽家らが箏(こと)などの邦楽器と共演して歌う「新しい日本歌曲」の創作に挑戦している。その先駆者が音楽家の森田澄夫さん(76)だ。自ら設立し代表を務める日本歌曲協会主催の新作公演「邦楽器とともに」は28日開催の秋公演で17年目を迎えた。森田さんは、「改訂初演を含む新作は135曲に増え、ルーツの違う洋楽と邦楽がやっとなじんできました」と目を細める。(田崎)

提唱者の森田澄夫さん 主宰の日本歌曲協会、28日公演

「新しい日本歌曲」創る

- ものしりミニ講座 3面
- さわやか散歩道 4面
- プレゼントコーナー 6面
- 健康レシピ 7面

クリック

〈2面に続く〉

毎年、秋に行われる「邦楽器とともに」の公演では、日本語の詩に付曲した新曲をソプラノやテノールの歌手が箏、尺八、三味線、薩摩琵琶などの邦楽器の伴奏で歌う。「日本の気候風土に育まれ、日本人の心を表すのに最も適しているのが邦楽器。その伝統楽器を使って音楽家が歌う音楽曲。現代日本の歌を創ろう」という発想から始まったのが「邦楽とともに」の公演だ。2018年からは春と秋の年2回、開催している。

月2回発行 第1月曜日と第3月曜日

創始15年超え、普及実感

〈1面から続く〉

森田さんが「邦楽器とともに」を始めるヒントを得たのは、ある曲がきっかけだった。その曲、箏曲家の野坂操壽（二代目）が演奏する三木稔作曲の「箏譚詩集」を聞いたとき「邦楽器で洋楽と同じようなこともできるのか」と衝撃を受け、「声楽家が邦楽奏者と一緒に演奏すれば、新しい何か」ができるのでは」とひらめいた。

▼「邦楽は両親の音楽」
声楽家を目指して東京芸術大学、同大学院へと進学した森田さんだったが、子どものころ周囲では「いつも邦楽が流れていました」

と話す。九州福岡市の生家は父が琴古流の尺八奏者、母は宮城道雄から直接教えを受けた箏曲家という家庭だった。そんな両親に反発していた森田さんは、長ずるにつれ洋楽に引かれていく。邦楽は両親の音楽、自分は洋楽だと思っていた「ド

福岡で催された「ドン・コサック合唱団セルゲイ・チャイロフ」の公演を聞き、「一生を懸けて取り組んでいこう」と声楽家を志したのが高校3年と遅かった森田さん。「運よく藝大に入ることはできましたが、（学友の）みんなと同じようにできるわけがない。遅く始めた分、できるだけ、卒業」をのぼして声楽を学ぶ期間を長くしたい」と同大学院修了後の1976年、国際ロータリークラブ財団奨学生としてイタ

リアに5年間留学し、国立ベルギー音楽院で学ぶ。回国でさまざまな人たちと交流しイタリア人への理解は深まったが、一方で「自分は日本人だ」という意識も強まる。帰国後、声楽家（テノール）としてデビューする際に「西洋の歌と日本の歌を歌っていこう」と決心するが、「現代の邦楽運動」を推進する。

「邦楽器とともに」の公演「四季と俳句」(2020年秋)



28日（金）午後1時半、東京文化会館（JR上野駅徒歩1分）小ホールで。

第1部：「組曲『芭蕉と民謡の素敵な関係』」、「午後の電話」、「曲集『あおのふるさと』より『その日—August6』ほか」、「死者の書」、第2部：「秋風幻想」、「生きている」、「『お笛恋語り』より『かえで紅葉はせ紅葉』ほか」、「横笛の恋」。

全席自由。一般5000円。問い合わせは日本歌曲協会事務局 ☎03・6421・2105

【読者割引】

「第17回邦楽器とともに」の子チケット予約（事務局扱いのみ）時に「定年時代を見た」と言えば、一般チケット料金を500円引き。

「第17回邦楽器とともに」2022年 いま届けたい魂のうた

楽曲はほとんどが楽器の演奏による曲で、歌える曲は少ない」という現実に気付く。

1901（明治34）年に瀧廉太郎が「荒城の月」（詩：土井晩翠）を作曲し日本歌曲（童謡・唱歌）が誕生。そして、邦楽界にも革命児・宮城道雄が現れ、邦楽器を使って西洋音楽の技法を大胆に取り入れ、楽曲春の海に代表される「新日本音

その宮城が発明した十七弦箏など音域、音量の豊かな多弦箏の出現は現代邦楽の器楽曲全盛時代を招来し、歌曲はほとんど姿を消してしまふ。イタリアから帰国後、森田さんが「歌える邦楽曲が少ない」と思ったのもこうした背景からだった。

森田さんは、声楽家として、ヘンデル「メサイア」、ベートーベン「交響曲第九番」のソロ（独唱）、宮城道雄

「交声曲 日蓮」など多くの曲をコンサートで歌う一方、50演目以上のオペラ、オペレッタやミュージカルに出演。イタリア古典歌曲から現代日本歌曲までと、幅広く意欲的な活動を続けた。

▼海外にも発信を

そして2006年から、声楽家としてデビュー以来の懸案だった「声楽家が歌える曲」づくりに着手する。邦楽器伴奏による日本歌曲の新作コンサートを始め、さらなる発展を期し16年には「日本歌曲協会」を設立、代表に就任した。詩人、作曲家、声楽家、邦楽家の4者が所属する同協会では、新作を披露する秋の公演に加え、春の公演も開催。春は新曲の再演や、次代を担う若き音楽家たちの参加、毎回テーマを設定しという三つの柱で開催。最近、動画共有ウェブサイトに「You Tube」

で年2回の公演を公開するなど、情報発信にも力を入れている。日本歌曲協会が発足してから6年。「何も無いところから始めてやっとなりの団体としての形が整ってきたかな、と思っています」と森田さんは手応えを感じている。3回連続で文化庁芸術祭参加公演に選ばれるなど、その評価は高まっており、音楽界の1ジャ

ンル」として認知されるようになってきた。「これからは海外への普及も図っていきたい。世界のタレントを募集して、5年後、10年後にさらなる飛躍を遂げた『邦楽器とともに』の姿を夢見しています」と話す。「邦楽器とともに」の仕事を優先している森田さん。声楽家としての活動は当面、休止状態が続きそうだ。



◆寺脇講演会「私が水俣から学んだもの—土本・原・レヴィタスの映画から」
20日（木）午後7時、常円寺（地下鉄西新宿駅徒歩1分）祖師堂地下1階講堂で。

認定NPO法人「水俣フォーラム」は、さまざまな角度から考えるセミナーを定期的に開催。今回は、土本典昭監督による記録映画「水

俣—患者さんとその世界」や、原一男監督のドキュメンタリー「水俣曼荼羅」、ジョニー・デップ主演のハリウッド製「MINAMATA—ミナマタ—」など、水俣病を主題とした数々の映画に注目。「ゆとり教育」の推進者として知られる元・文部省の寺脇研氏が、東大在学当時から続ける映画評論家としての蓄積を基に講演する。参加費1000円。定員50人。事前予約必要。問い合わせは ☎03・32008・3051

クリーンの映像とともに

される。指揮：アンド

定曲は「続・夕陽のガタッチャブル」ほか。

万3000円。